

# 令和4年度 考古学講座

メインテーマ

## 『もっと知りたい！山梨の縄文のこと』

—日本遺産に認定された山梨の豊かな縄文世界のヒミツ—



▲講座のトリとして総括をしてくださった中山先生



▲配信の様子【講師サイド】

### Microsoft Teams を使ったオンライン配信始動

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」に認定されている山梨の豊かな縄文世界について、さまざまな視点から深掘りしていくことをテーマに開催した本講座。特に今年は4人中3人の講師が気鋭の若手研究者とあって、より新しい見地からのアプローチに期待が寄せられました。また、前年度に引き続き、今年度も講座の様子をオンラインにて配信するシステムを採用し、感染症予防の観点から、自宅にしながら安心・安全に考古学を学べる環境作りに努めました。本講座からはより長時間、より多くの方にご参加いただくため、Microsoft Teamsでのリモート配信を利用し、申し込みの受付から資料の配布、受講、質疑応答までのすべてをオンライン上で行えるよう取り計らい、試行してみました。

結果として、通常の現地開催以上の参加者に恵まれ、遠方の方にも気兼ねなくご参加いただけたのは、やはりオンライン配信ならではの成果であったように思います。一方で、配信に対応していない機種を使用している方など一部の利用者からは従来式の現地開催を望む声も根強くあり、急遽少人数向けにエントランスホールでオンライン配信を視聴できる会場を設置するなど、状況に併せての対応も必要となりました。こうした方法については今後の状況次第でまた変わっていく可能性があります。現地とリモートそれぞれの良さを活かし、より快適で分かりやすい使い方を模索していきたいと考えています。

今年度の考古学講座は右記の日程で開催しました。

※全日程終了しました。

第1回 5月21日(土)

「土器や土偶に描かれた『顔』」  
山梨県埋蔵文化財センター

佐賀 桃子 氏

第2回 6月18日(土)

「煮炊きに使われない縄文土器」  
山梨県埋蔵文化財センター

岩永 祐貴 氏

第3回 7月9日(土)

「環境変動と八ヶ岳山麓の縄文世界」  
北杜市教育委員会

生山 優実 氏

第4回 7月23日(土)

「百年の論争 縄文農耕論の今」  
帝京大学文化財研究所 客員教授  
南アルプス市ふるさと文化伝承館 館長

中山 誠二 氏

# 令和4年度 館長講座

高橋龍三郎 館長 ▶

【早稲田大学文学学術院教授】



今年度も当館館長・高橋龍三郎による縄文時代をテーマとした講座を開催しております。各回開催日の1か月前から前々日まで申し込みを受け付けますので、ホームページよりご予約ください【定員95名になり次第終了】。

令和4年

6/4(土) 第1回 「縄文時代の儀礼と祭祀」 終了しました  
—中部高地における事例から—

9/3(土) 第2回 「民族考古学へのアプローチ」  
—サケ・マス論とカリフォルニア・インディアンの民族誌—

12/10(土) 第3回 「中部高地の縄文土器」  
—その特異性と芸術性を解読する—

令和5年

3/18(土) 第4回 「縄文土器型式はなぜ成立するのか」  
—民族誌的理解について—

## Next Exhibition

冬季企画展

### 「笛吹市の出土品Ⅲ」

2022.12.10(土) ▶ 2023.1.22(日)

地域の文化財の魅力を紹介するシリーズの最新版。笛吹市シリーズのラストを飾る今回は、古墳時代の終わりから奈良・平安時代にかけての遺跡にスポットを当て、甲府盆地の歴史における笛吹市の位置づけを考古資料から探ります。



墨書土器 狐原遺跡 平安時代 当館蔵